

講演会報告

大都市郊外の家族・コミュニティ変容と 〈弱い専門システム〉

— コミュニティ・カフェは何故つくられたのか

講師：大江守之 教授（慶應義塾大学総合政策学部）

日時：2008年12月9日（火）午後6:30～8:00

場所：明治学院大学 白金校舎 2号館2302教室

主催：明治学院大学 社会学部附属研究所（調査・研究部門）

戦後日本の家族システムの変容に伴い、郊外地域では市場的・行政的解決の難しい問題が出現している。新しい「協働的解決」の枠組みを提示するとともに、問題解決への視座を示す。

『大都市郊外の変容と「協働」——〈弱い専門システム〉の構築に向けて』書籍帯より

[大江守之教授プロフィール]

慶應義塾大学 総合政策学部教授

1975年、東京大学理学部卒業。1977年、同大学工学部卒業。

国立社会保障・人口問題研究所、人口構造研究部長を経て1997年より現職。博士（工学）。

著書に『大都市郊外の変容と「協働」——〈弱い専門システム〉の構築に向けて』（編著、慶應義塾大学出版会、2008年）、『総合政策学——問題発見・解決の方法と実践』（編著、慶應義塾大学出版会、2006年）などがある。

[講演要旨]

戦後日本の家族システムの変容を背景として、これまでになかった広義の当事者間の相互自立支援を中心的に組み立てられる支援システムとしての「協働」が求められている。大江教授は、「協働」の実現とは、「弱い専門システム」の構築にほかならないと指摘し、従来型の専門システムである「強い専門システム」ではなく、強い専門システムと当事者の間にあって、当事者自身による問題解決を支援する「弱い専門システム」という斬新なシステムの構築を提唱している。弱い専門システムの具体例として、「コミュニティ・カフェ」（横浜市戸塚区ドリームハイツ「ふらっとステーション・ドリーム」）の活動をご紹介いただいた。

[当日の様子]

当日は夕刻からの開始で、あいにくの雨模様でもありましたが、学内外から多くの方にご参加いただくことができました。本学の学生や教員、卒業生の方々、NPO や地方自治体の方など、顔ぶれも多様なものでした。

まず、明治学院大学社会学部附属研究所研究部門主任の浅川教授より開会の挨拶がありました。続いて野沢研究所長より、大江先生のご経歴などについて紹介がありました（大江先生のご経歴についてはプロフィールの部分をご覧ください）。そののち、1時間程度、大江先生にご講演いただきました（講演の具体的内容については、講演要旨の部分をご覧ください）。



ご講演ののち、フロアとの質疑応答の時間が持たれました。「弱い専門システム」や「協働」のあり方に対して、実務上のことから、理念的なことまで、幅広い質問が出されました。質疑応答の中でさらに話が展開していき、時間ぎりぎりまで実りの多い議論が交わされました。



[\[このページのトップに戻る\]](#)